

# 理事通信 2023-24 年度

2023 年 7 月 15 日 東日本区理事 山田公平

## ワイズに変化を

今期の東日本区のワイズ運動に変化を生み出しませんか？

一メンバーとして、クラブとして、できることを一緒にしていきましょう！

ワイズにどんな変化が必要か、何に関心があるか、それぞれの想いや願いに応じて、ワイズの一員として自分にできることを、やってみたいことに取り組んでください。そんなことをこの 1 年でやってみましょう。それがワイズに変化を生み出すことになると感じています。

この 1 年で私の関心あるところを紹介します。第 1 の方針として、ぜひ取り組みたいことはユースアクションの拡がりをもたらすことです。

理事主題として挙げた言葉は、

**未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、自信を育み、真の喜びに出合う！**

これは一体何を言いたいのかと思われるでしょう。ユースは、高校生から 35 才位までの人たちを指していますが、この世代は、学校、進学、部活、就職、そして仕事に入れば、競争の中で切磋琢磨を求められています。一方、いわゆる Z 世代と言われる高校生ぐらいから 25 歳ぐらいまでの人たちは、進学や仕事での成功も大切ですが、何か意味のあることに関心を示す、実行するタイプの人たちが多い世代と言われています。昨年 4 月から今年の 1 月まで、ワイズと YMCA が協働で始めた第 1 回ユースアクションは、この世代の人たち自身に何ができるかを考えてもらい、それを実施できる機会を提供するというものでした。助成金を出すことで、何か社会のためにやりたいことを考え始め、それが様々な取り組みを生み出してきたと言えます。その活動報告を聴いて感じるものが私の示している理事主題の言葉です。まさにユースアクションの目的は、この若い世代の人たちが達成感と今までとは違った心の喜び（満足感）を感じたのではないのでしょうか。

ワイズや YMCA には、「未来のために今、学びと気づきを！」を提供できているかが問われます。そして若者自身が何か社会のために取り組みながら、「未来のために、自信を育み、真の喜びに出合う！」ということを感じたか問われています。彼らの報告や言葉や表情を通して確かに手ごたえを感じ、今までにない他者のために役だっている自分の新しい達成感、喜びに出合

った体験になったのだと感じることができました。この感覚をユースの言葉や表現から感じられるかがユースアクションの評価のポイントだと思います。

## 今年度（2023-24年度）の具体的目標

ここでは今年度のワイズ東日本区でやってみたい8項目の具体的目標を挙げています。これを読んで、ワイズの一員として個人的にやってみたいことがありますでしょうか？ほかのクラブの人たちと一緒に、あるいはクラブの目標としてやろうということになれば、ワイズに新しい力と意味を生み出すことになります。ご検討ください。もちろん、各ワイズで目標を挙げて、自ら取り組んでもらいたいと願っています。これらの8つの目標は、今年度の理事の願いであり、これからこれらの目標にどう向かっていくか、検討をし、皆さんの参画を求めています。

### 目標1. ユースアクションをワイズの看板に

今年は秋（9月—11月）にオリエンテーションや社会問題を考える研修会をしようと考えています。募集要項などをその時に発表しようと思います。来春（2024年1月—2月）にプロジェクト募集をし、実際のアクションが始まるのは来年の4月か5月からとなるでしょう。東西日本区協働で行うことになるので、昨年同様に全国で10のプロジェクトを選考することになります。昨年は、10プロジェクトに助成金（総額で140万程度）を提供しました。このプロジェクトは主に2024年4、5月から-25年度1、2月までの実施ということになってきますが、その準備段階を今年度におこなう2年がかりのプロジェクトになります。YMCAのユースだけでなく、学校や他の団体のユースのグループも助成対象になります。

### 目標2. 東日本区独自のユースアクションの展開を

2024年度は、特別に数か所のユースアクション北海道版や学生YMCAを対象にしたユースアクションを東日本区で独自に行います。北海道部には3つのクラブしかありませんが、その中でいくつかのクラブとYMCAでユースアクションに取り組む青年の変化や喜びを感じてほしいのです。2024年年6月1日は東日本区大会を北海道帯広で行います。その時の目玉としてユースアクション北海道版の報告と協議をしてもらいたいのです。また、学生YMCA、通称「学Y」との関係も強化できればと考えています。ユースアクションを通して学Yとの関係を築きあげるきっかけにもなると思います。無理なく、独自の関係を生み出すことになることを望んでいます。

### 目標3. 福島県と長野県に YMCA を

福島県や長野県には YMCA がありません。長野ワイズは、「長野に YMCA を」という願いを持ちワイズが 2010 年に設立されました。今ワイズがある長野市や松本市で YMCA 運動を興す、そんな働きを支えるワイズを強化するという当初の目的を、この年に目指せないか検討をしようということです。YMCA をといっても、会館を持つことや専属のスタッフを置くということではなく、富士山部で独自に行っていることも参考にしながら、地域のニーズを知ったうえで運動を興していくというのはどうでしょうか。それは富士山部の多くのワイズがしているように子どもたちの活動の場作りかも知れません。松本クラブでは、留学生を支援する場として日本語スピーチコンテストを続けてきました。この延長の活動も考えられます。あるいは障害を持つ人たちへの支援の場かも知れません。この地域のワイズ、知り合いのいる方、関心のある方に呼び掛け、一緒に話し合い、地元に関心を生み出す講演会や話し合いの機会を設けていきます。2 年 3 年かけて徐々に進めるのはどうでしょうか。

### 目標4. クラブライフを楽しく、意味あるものにしていくとは何か？

それぞれのクラブでクラブライフをさらに楽しくする、クラブのカラーを見出していく、クラブが目指すものを分かりやすくする、そしてそこに人を誘えるようにする、それがたぶんクラブライフをより良くする発想の原点かも知れません。「それをするために何ができるか」を考え実行する一年にしたいと思います。クラブのメンマーたちが集まり、話し合い、実行していくことやってみませんか？ 例えば、3 か月に 1 回でも面白いテーマで講演会を実施する。そのために、小さいクラブだけではなく、近隣のクラブと合同例会にして、講演会を実施し、そこからこの 1 年にできることを検討していくのはいかがでしょうか。

### 目標5. 地域での活動、国内での活動を充実したものにするため

今年目標の中に、ユースアクション、ワイズのエクステンション、クラブライフの充実への取り組み、ユースインターン制度(iGo)、あるいは国内外のクラブとの交流や応援など、ワイズの活動をより良く、より意味のある形にするためには資金が必要です。資金集めをしっかりと、献金の在り方も見直す。支えたい活動やクラブで取り組みたい活動があれば、それに必要な資金を集める工夫をしていくことができます。応援できるところに資金面で応援するという活動です。ユースアクションはその典型的な例です。それを可能にする仕組みをクラブで考える、さらには今までしてきた献金活動をもう一度見直し、クラブライフをより意味あるものにしていきましょう。資金集めの充実がクラブ単位で、地域で、YMCA との協働事業で、さらに

は全国で展開する活動のために必要となります。これまでの献金制度の見直し、協議を進めていきたいと考えています。

## 目標 6. 国際・交流活動の具体的展開の一步を

ワイズの国際活動には BF（訪問を通してのフェローシップを）、TOF（貧困などの解消プロジェクトを支える）、交流活動として IBC（海外のワイズと関係強化）などがあります。この国際的関係をより身近に感じる形になる仕組みを作る必要を感じています。例えば、ある特定の国のワイズや YMCA と組んで一緒に TOF（Time of Fast）のプロジェクトを作り、そのワイズや YMCA と BF（Building Fellowship）で人の派遣や現地のワイズメンを招いたりもできます。それが IBC（International Brother Club）となって関係（交流や資金寄付）を継続的にすることもできます。国際活動はワイズの特徴となりうる活動ですが、世界的組織としての特典を日本のワイズの人たちが身近に感じる仕組みを作れないでしょうか？

## 目標 7. iGo（ユースのインターンシップ）を国内で始める工夫を

iGo というプログラムは、Internship for Global Outreach の略で世界に手を伸ばすための新しいユースのインターン制度です。これは、ユースが 1 か月程度海外の YMCA 活動などにインターンとして送り出す制度です。そんな希望をもつユースを支えるのがワイズの役割となります。今年度は、この制度をまずは国内でもできないかと考えています。例えば高校生や大学生の夏休みを利用して、北海道で酪農体験を 3-4 週間したり、YMCA の保育園や老人ホームでの実習体験を提供するなどが考えられます。国内のワイズと YMCA の関係の中で、その可能性を探ってみる 1 年にしたいと思います。このプログラムこそ、ワイズと YMCA ができる協働事業になるのではないのでしょうか。実習を受け入れる地域のワイズは、実習生のホームステイ、例会への招待など、実習中のユースを支えることとなります。

## 目標 8. 将来のワイズを一緒に考え、話し合い、提案していきませんか？

ワイズ将来構想検討委員会という検討会を設け、ワイズのこれからの区、部、各クラブの在り方、こうあってほしいというビジョン、中長期的目標や計画、そしてそのための戦略を話し合い提案をしていくこととなります。ワイズの強みや弱みを見出し、そこから次のビジョンを求めていくという委員会になります。年齢、ワイズ歴、性別など問いません。より良いワイズ東日本区を目指していきたいと思う人はぜひこの委員としてご参加ください。委員長は、ワイズの経験豊かな田中博之ワイズ。これから 1 年、2 年かけて将来構想とそのための戦略を提案し

ていきます。来年6月に行われる東日本区でもその提案を紹介し、さらなる構想を作る予定です。関心ある方は、ぜひ委員に。

## ウェルビーイングというワイズの在り方を目指して

最初の1年には、上の目標の内一つでも関心のある目標に関わりませんか？Well Beingという言葉があります。「幸せ」とも訳せますが、「充実感を持ち続ける」人生を目指そうという言葉です。そのためには、ワイズで「やりたいことをやってみよう！」、「同じ目的を持つ人たちとつながっていく」、「前向きに行こうという気持ちで」、「自分らしく、自分らしさで進めよう」といった在り方で、それこそワイズがWell Beingという生き方、あり方を歩むところになりましょう。

## 具体的なかかわり方とかかわり方に関する相談

目標1. ユースアクション全国版 タスクチームを作り、各地のユースグループ（YMCA ユース、学校、学生YMCA、その他のサークルなど）へのプロジェクト参加募集をします。自分の地域のユースにこの事業を紹介したり、知っているユースグループに声をかけたり、話し合いをしたりしてください。

目標2. ユースアクション北海道、学生YMCA版 上のかかわり方と同様ですが、特別に北海道での3つのYMCA（ワイズ）で出来る事を検討したり、応援したりする人々を求めています。さらに、いくつかの学Yにも声をかけてください。

目標3. 福島市、長野市、松本市にYMCAを これらの都市にYMCA活動をとということに関心のある人を紹介してください。これらの地域の活動に関わりたい人もぜひ。

目標4. クラブライフを良くする工夫を これは各クラブで工夫して、部で意見交換をし、新しい取り組みなどを分かち合ってください。

目標5. ファンドレイジング強化 主に区で行いますが、ユースアクションなど具体的な活動を支えるファンドレイジングをぜひ進めてください。

目標6. 国際・交流事業の具体的展開を 主に国際・交流事業委員会で検討をし、クラブや個人に関心のある人たちがかわる仕組みを作れたらと思います。関心ある方、具体的な提案をぜひ。

目標7. ユースインターンシップ(iGo)の具体化 関心のある人たちが、タスクチームを組んでいくつかの事例を生み出せればと思います。関心のある方、受け入れ可能な方、歓迎です。

目標8. ワイズ将来構想検討委員会 是非ともワイズの未来を考えたい人、アイデアを持っている人、こんなことができないかと思う人、ぜひ委員会に参加ください。募集しています。関心ある人は、田中委員長（東京多摩スマイルクラブ）へ。